

欧米で進む薬物療法

性犯罪者の再犯防止へ研究会

性犯罪の再犯防止に向けた加害者への薬物療法は欧米では1990年代から導入が進み採用国は少なくない。だが、日本では本格的な研究はこれからだ。薬物療法を希望する加害者も少なくないというが、刑務所などに入れば治療が受けられなくなる。法務省も研究成果を注視している。

【1面参照】

人権的な配慮に課題

性犯罪防止策の先進地カナダでは、刑務所内での認知行動療法による再犯防止プログラムに効果がない場合などに、本人の了解を得て抑制ホルモンを投与している。日本の法務省は、矯正施設などでの薬物療法の導入について「副作用やコスト面の課題に加え、人権的な配慮や加害者への社会的な処罰感情との兼ね合いもあり、諸外国

の効果を調査している段階（成人矯正課）。ただ、担当者は「決して否定的に捉えているわけではない」と強調する。「性犯罪者治療研究会（仮称）発起人の福井裕輝医師は都内の医療機関で、執行猶予や保護観察中の性犯罪者らの治療に自由診療（健康保険適用外）で当たっている。

強制わいせつなど約20件を繰り返した関東在住の10代後半の男子予備校生は、本人や家族の希望で受診。磁気共鳴画像（MRI）検査などで脳の異常などが確認された。行いを自己分析する認知行動療法や抗うつ薬の投薬を1年半続けた結果、問題行動を起こさなくなったという。福井医師のもとには、性犯罪で逮捕された容疑者の家族から治療の依頼が多く寄せられるが、実際に判決を受ければ治療は受けられない。福井医師は「薬物療法は、化学的去勢」と誤解されがちだが、投薬をやめれば性欲は回復する。本人が望んでいても投薬せず、結果的に性犯罪を繰り返させてしまう方が倫理的に問題だ」と強調する。刑務所などの処遇プログラム作成にかかわった小島秀吾・国際医療福祉大大学院准教授は、治療（坂本信博、中原興平）に対する受刑者の意識が釈放時期の判断材料になるなどの懸念もあるとして「治療の任意性をどう担保するのか、刑罰と医療行為をどのようにして明確に線引きするかなど課題は多い」と話す。その上で「ケースによっては効果が期待できるのも確か。性犯罪の再発防止策を充実させるために、研究や議論を進めるのは賛成」としている。

性犯罪者の再犯防止策

2004年に性犯罪の再犯者が起こした奈良県の子供誘拐殺害事件を機に、法務省が「性犯罪者処遇プログラム」を06年度から全国18の刑務所などで導入した。常習性などの調査に基づき再犯可能性を3分類し、最長16カ月間、犯行に至る行動を自己分析したり、自身をコントロールしたりする方法を学ぶ。法務省によると、10年度末現在で、出所した受刑者1132人のうち35人（約3%）が再び性犯罪で摘発された。導入前の再犯率は1割程度。

ワイドBOX

中3病抱えアジア

体操ジュニア 静岡の芦川選手

【バンコク共同】背骨が曲がっていく側彎症という病気を抱えた静岡県富士市の吉原第一中学3年芦川七瀬選手（15）は水鳥操館が12日、タイの首都バンコク近郊で開かれた体操のアジアジュニア選手権の個人総合で初優勝を果たした。芦川選手は5歳で体操を始め、小学6年の時に発症したが、痛みをこらえながら体操を続けてい

に支えられてここまで来られたので、一人一人に感謝したい」と喜びを語った。芦川選手は床、跳馬、段違い平行棒、平均台の4種目の合計で争う個人総合に女子の日本代表4人の1人として出場。24位も日本選手で、日本は団体でも、2位の韓国を引き離して優勝した。

震災がれき

福岡県議会 処理決議へ

2月定例会 主要4会派が調整

福岡県議会の自民党、例会に提出する方向で最請するよう求める内容。代表者会議で決議案の文

放射線物質についての基準は必ずしも住民が安心できるものになっていない」と述べ、慎重な姿勢を示している。がれきの受け入れをめ



水鳥舞夏コーチは芦川選手について「初の海外遠征で疲れのせいか調子を落としていたが、いつもより良い演技ができて素晴らしかった」と話した。